

# CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 みんなで支え合う安心な地域を目指して
- 8 平成 23 年度決算
- 12 地域で育てよう大切な子どもたち
- 14 奥州ふるさと再発見号の旅  
青少年が姉妹都市で国際交流
- 15 結 - ゆい - ～ 30 の地区振興会による協働のまちづくり実践事例～
- 16 I L C 希望のひかり
- 18 市の出来事から
- 20 まちの話題
- 22 つながれ 広がれ NPO の輪
- 24 子そだて広場  
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 25 地域安全情報  
わが家のアイドル  
子ども喜ぶ人気メニュー
- 26 キラリ人輝く  
夢トーク
- 27 クラブ紹介  
ぼんたのつぶやき
- 28 くらしの情報
- 32 奥州遺産

## 〈今月の表紙〉



岩谷堂幼稚園（佐藤園子園長、園児 67 人）の 5 歳児 26 人が 10 月 3 日、えさし郷土文化館と同館体験用水田で、稲刈りと脱穀を体験しました。

長靴を履いた園児たちは、同館研究員から鎌の使い方を教わると「ぎこぎこ」と声を上げ、楽しそうに稲を刈り取りました。館内で行われた脱穀作業体験では、昔ながらの千歯こきに勢い良く稲束を振り下ろし、力いっぱい引いてもみを落としていました。



専用の絵具を使い、完成間近の作品を仕上げる



25

## 時の流れを忘れるほど没頭し 作品の完成が至福の時

菅原真弓さん（50歳）  
〓 衣川区天田 〓



すがわら・まゆみ◎昭和 37 年平泉町字衣関生まれ。衣川郵便局に非常勤職員として勤務。家族は、夫、長女、二女、長男、義父、義母の 6 人と愛犬のティオ（メス）

家具などの木製品に、専用の絵具を用いて描く「ツールペイント」に取り組む菅原真弓さん。のどかな山里にある自宅で、喧騒を忘れたい気持ちに筆を運ぶ。

10 年ほど前、友人が作り上げた作品を目にし、その鮮やかな出来栄に心を奪われた。「自分でも書いてみたい」とツールペイントのとりこになった真弓さんは、指導者を求め、前沢区の講師と出会う。現在も月に 2、3 回教室に通い、技術の向上に励んでいる。

中学ではソフトボール、高校では陸上の短距離走と、芸術とは無縁の学生時代を送った。高校卒業後は東京で OL として過ごし、25 歳のとき帰郷とともに結婚。2 人の娘と 1 人の息子に恵まれた。

書道は師範の資格を持つ真弓さんだが、「書道とツールペイントでは筆の運びが違う。先生をまねて描いても同じようにはできない」と苦労を明かす。次々と作品を手掛け、完成度を高めたいと試行錯誤の日々を重ねる。

4 年前、初めて講師と共に一関文化センターの展示会に出品した。昨年は北股地区文化祭に仲間と 2 人で出展。しかし「描くことが楽しい。出展が目的ではない」と初心を忘れない。

「花が好き。素敵なバラを描きたい。そして仲間も増やしたい」と真弓さんは遠くを見つめる。豊かな自然に囲まれた静寂の中、真弓さんはこれからも筆先に情熱を注ぎ続ける。